



神奈川県立 公文書館だより

第46号

編集発行 神奈川県立公文書館

〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1

電話 045 (364) 4456

FAX 045 (364) 4459

https://archives.pref.kanagawa.jp/

休館日:月曜日、祝日(月曜日と重なる場合は翌日)、年末年始(12月28日から1月4日)

ミニ展示「畠山重忠と二俣川」 令和3年12月17日〜令和4年3月31日 当館1階ロビー

鎌倉時代の武将畠山重忠は、源頼朝の先陣を務めるなどの活躍をしましたが、最後は謀略により二俣川で非業の最期を遂げました。当館が所在する横浜市旭区には現在でも数々の史跡があり、地元でも親しまれていることから、当館では、平成一五(二〇〇三)年に企画展示「鎌倉御家人畠山と二俣川の歴史」を開催しました。

その重忠が令和四(二〇二二)年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に登場することから、当館では過去の展示を再構成し、あわせて当館収蔵の古文書や刊行物等を紹介するミニ展示を開催し、その人物像や二俣川との関わりをパネルでたどりました。

◆畠山重忠について

平安時代末期の長寛二(一一六四)年に武蔵国畠山(現在の埼玉県深谷市)で生まれた重忠は、治承四(一一八〇)年に伊豆で平家打倒の兵を挙げた源頼朝に従い、鶴越の奇襲攻撃で知られる一の谷の合戦などで活躍し、鎌倉幕府の有力な御家人の一人となりました。

しかし、頼朝の死後に起こった幕府内部の勢力争いに巻き込まれ、元久二(一二〇五)年に北条時政の陰謀により、二俣川の地で北条氏らの大軍に敗れ、四二歳の若さで討ち死にしました。

重忠の人生は豊かなエピソードで彩られており、史料上でも好人物として描かれるのが特徴です。頼朝から先陣(行列や軍隊の最前列)を任されていたことから、容姿や体躯、所作も優れていたことが指摘されています。

◆鎌倉時代の二俣川

重忠はなぜ二俣川で命を落とすことになったのでしょうか。これは、「主要な道の一つが通っていたから」と考えられます。

当時、鎌倉と各地を結ぶ主要な道は、上道・中道・下道の三ルートでした(諸説あります)。中道には二俣川が、上道には重忠が拠点としていた菅谷(埼玉県嵐山町)がありました。上道と中道は府中(東京都府中市)で接続しています。

二俣川合戦の際、鎌倉からは二俣川と共に上道の関戸(東京都多摩市)

にも軍が派遣されています。菅谷から鎌倉に向かうには、上道・中道のいずれかは通るため、関戸と二俣川に網を張っておけば、重忠を確実に捕捉することができると考えたのでしよう。関戸は多摩川の渡河点にあたることからたびたび大きな合戦の舞台となつていきます。二俣川の地は二俣川合戦以降、大きな合戦の舞台となった記録は見られませんが、関戸と同様に交通や戦略上の重要ポイントとして合戦の舞台となりうる地であったと言えそうです。

(展示担当 資料課 渡辺真治)



展示風景



鎌倉へのルート

◆資料紹介
相模国愛甲郡宮ヶ瀬村落合家文書

令和二(二〇二〇)年度に購入した「相模国愛甲郡宮ヶ瀬村落合家文書」は、現在の神奈川県愛甲郡清川村の宮ヶ瀬地区に居住していた落合家に伝来していた資料群です。
本資料群は、宮ヶ瀬ダムの建設に先がけ昭和五四～五五(一九七九～一九八〇)年に実施された、宮ヶ瀬の記録調査団の調査結果である『清川村宮ヶ瀬古文書資料所在目録(宮ヶ瀬の記録)』(昭和五六年)に、「落合益男氏所蔵資料」として掲載されています。



資料ID2202011001 土地台帳 四冊之内 第一号



資料ID2202011018 [宮ヶ瀬村字切図]

「落合益男氏所蔵資料」は総点数六三三点ですが、当館購入分は、前掲目録の内四五～六三番の土地台帳および字切図のみです。これ以外の資料の行方は分かっていません。
この土地台帳・字切図は、明治初期の地租改正の際に作成された台帳・絵図の写しであると考えられます。
現在では失われてしまった、往時の宮ヶ瀬の様子をうかがうことのできる資料群です。



詳細はこちら

◆資料紹介
近年引き渡された公文書から
(圏央道関係)

当館では、毎年、県庁の各所属から保存期間の満了した公文書が引き渡されています。引き渡された公文書は、当館職員が選別作業を行い、歴史的に重要な公文書は保存しています。本稿では、近年引き

(資料課 上田良知)

渡された公文書から1点資料を紹介いたします。

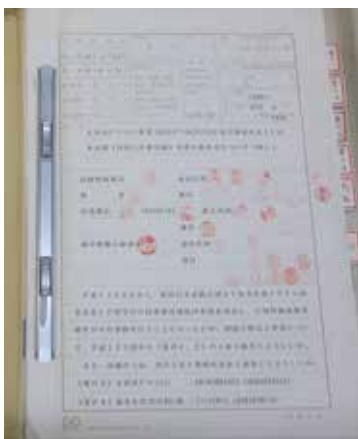
○「平成7～11年度 (さがみ縦貫道路)海老名JC協定協議」
(資料ID:1201519595)

この資料は、首都圏中央連絡自動車道(以下、「圏央道」と記す)の海老名インターから海老名南ジャンクションにかけての区間の建設に当たっての調整に関する公文書です。

圏央道のさがみ縦貫道路区間は、茅ヶ崎ジャンクションから相模原愛川インターの区間です。平成22年2月に、海老名ジャンクションから海老名インターの区間が開通したことを皮切りに、平成27年3月に全線開通しました。

本資料には、平成10年に施行命令が出されたことを受け、平成11年から12年にかけて、県が国・日本道路公団と調整をしながら事業を進める様子が載っています。県の役割としては、日本道路公団から受託した用地取得事務を進めることであり、広域幹線道路事務所・相模川総合整備事務所・厚木土木事務所の事務を進めるに当たっての役割分担も、この資料には記されています。

なお、本稿で紹介した資料は誰でも閲覧・撮影することが可能です。
(資料課 吉村雄多)



*編集後記

公文書館は、一見穏やかな施設に見えますが、県の各機関から運び込まれる年間1万箱を超える行政文書の選別や配架を手作業で行う体力の要る職場です。現在、2名の職員が新型コロナウイルス感染症対応のため県庁に派遣され、通常より少ない体制で日々の業務の処理に追われています。

緊急事態宣言やまん延防止措置に伴い、長らく休館したことで、利用者の皆様にはご不便をおかけしてしまいましたが、現在は予約制での資料閲覧や会議室の貸出しを再開しています。皆様のご来館をお待ちしております。

公文書館へのアクセス

Map and access information for the Kanagawa Prefectural Archives. The map shows the location relative to Sagami Line and Sagami Express. Access information includes: 電車の場合 相鉄線「二俣川駅」(横浜駅から特急または急行で11分)下車、二俣川駅北口より徒歩17分、二俣川駅北口より相鉄バス「旭23運転免許センター循環二俣川北口」行きで「運転免許センター」停留所下車、徒歩3分。車の場合 「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分。 ※駐車スペースが少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。